

領域	専門基礎分野	授業科目	解剖生理学Ⅲ	単位 (授業時間/時間数)	1 (28/30)
開講年次	1年次	開講時期	通年	授業回数	14回
担当講師名	非常勤講師		講師所属		
特記事項	—			—	

授業のねらい

看護は医療を担う重要な仕事である。適切な良い看護を行うためには、人の身体や疾病についての十分な知識をもつことが不可欠であり医療の質を高める上で重要である。

人体は構造的に連続した器官系統でできており、機能的にはそれらの系統が互いに関連しあって高度な身体機能が営まれている。看護を学んでいく中で人間を理解する身体的側面として、人体の器官系を学ぶ。また、正常な生理機能・防御機構を学習し、看護実践の基礎となる疾患の病態生理基礎が理解できるようになる。

解剖生理学Ⅲでは、循環器、血液・造血器のメカニズムと働きについて教授する。

授業目標

循環器の構造と働きについて理解する。

血液・造血器のメカニズムと働きについて理解する。

授業概要

1. 血液の循環とその調節 (24 時間)

1) 循環器系の構成

2) 心臓の構造

(1) 心臓の位置と外形

(2) 心臓の4つの部屋と4つの弁

(3) 心臓壁

(4) 心臓の血管と神経

3) 心臓の拍出機能

(1) 心臓の興奮とその伝播

(2) 心電図

(3) 心臓の収縮

4) 末梢循環系の構造

(1) 血管の構造

(2) 肺循環の血管

(3) 全身の動脈

(4) 全身の静脈

5) 血液の循環の調節

(1) 血圧 (動脈圧)

(2) 血液の循環

(3) 血圧・血流量の調節

(4) 微小循環

(5) 循環器系の病態生理

6) リンパとリンパ管

- (1) リンパ管の構造
- (2) リンパの循環

2. 血液のはたらき (4時間)

1) 血液

- (1) 血液の組成と機能
- (2) 赤血球
- (3) 白血球
- (4) 血小板
- (5) 血漿タンパク質と赤血球沈降
- (6) 血液の凝固と繊維素溶解
- (7) 血液型

授業の進め方

講義

教科書

系統看護学講座 専門基礎分野 解剖生理学 人体の構造と機能〔1〕(医学書院)

参考図書

からだの地図帳 (講談社)

評価方法

終講時 客観式テスト (80点 20点)

試験時間は時間数に含む。